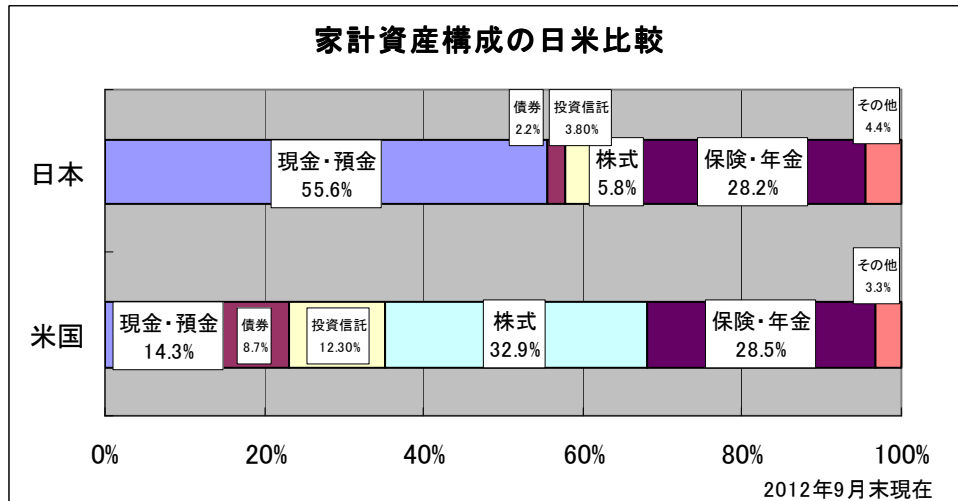


ATTENTION



この表は、日本と米国の家計の資産構成を比較したものです。日本と米国の大きな違いは2つあります。まず日本は現金・預金が56%と過半を占めている点です。もうひとつの違いは、日本では株式が6%に対し、米国は33%を占めています。また投資信託も、日本が4%に対し米国は12%と、株式、投資信託とも米国の比率が圧倒的に高くなっています。日本の現金・預金が多いことは、大変懸念すべきポイントです。これまではデフレが長く続いたため、現金・預金においてもよかったのですが、今後、財政破綻懸念や資金調達難から国債価格が暴落し金利が上昇すると、大幅なインフレとなり、現金や預金の価値が大きく目減りしてしまいます。また、国債価格下落による財務基盤の悪化から、国債を大量に保有する銀行の経営状態への懸念も台頭し、預金が必ずしも安全とはいえなくなります。インフレとなれば、実物資産である株や不動産にお金がかかるとともに、円安に動くことが予想されます。現在98%が円建てのお金を外貨資産に振り向けることは、有力な資産防衛策となることでしょう。

OPINION

求められる経営者の資本政策への理解や株主重視の姿勢

2012年2月の経済産業省委託による野村資本市場研究所のプロ市場参加者へのヒアリング調査には、大変注目を引くコメントがあります。掻い摘んでご覧に入れましょう。

- ・ 資本コストの概念を理解している日本の経営者はせいぜい3割くらいではないか。経営者の半分位は、資本コスト＝配当と思っている。
- ・ 多くの企業が株主資本利益率の重要性を認識できない。
- ・ 日本では、経営者が投資家をばくち打ちとっており、信用していない。逆に投資家も経営者を信用していない。それゆえ、株主と経営者の間でほとんど対話ができている。
- ・ 日本では株価に関心を持っている経営者は少ない。
- ・ 株式の持ち合いが日本市場の問題である。持ち合いがあるので、機関投資家や外人投資家が反対しても、株主総会で会社の議案がみな通ってしまう。

これらは、足元から株式市場の健全な形成を危うくするコメントです。会社を発信源とする根底的課題がここには見えてきます。現在日経平均は11000円を超え、久しぶりに株式市場は活況を呈していますが、上記のような基本的な課題の改善に真摯に取り組まないと、また以前の方向感に乏しい閑散とした市場に戻ってしまいます。企業経営者の資本政策への理解や株主重視の姿勢が喫緊に求められます。

MARKET

	(1月末)	(前月比)
日経平均	11138.66円	+743.48円
NYダウ	13860.58ドル	+756.44ドル
米ドル	91.82円	+5.0円

WORDS

成功や失敗といった価値観から抜け出して、超然と自立し、正しい行為の道筋にそって行動し続けるなら、成功や失敗のレベルの違う、価値ある生涯を送ることができる。成功など、人としてなすべきことを果たした結果生まれるカスにすぎない以上、気にする必要など全くないのである。

— 渋沢栄一『論語と算盤』

株式を買って持つことの意味－会社と株主のWIN、WINの関係

株を買うと、そのお金は会社に行くのでしょうか。株を買うと、株主すなわちその株数に応じた持分を持つ会社の所有者になりますから、会社とのお金の出入りがあると考えてもおかしくありません。しかし、それは一面で正しく、一面で違います。

まず、会社に株主の資金が入るケースを見てみましょう。たとえば、フェイスブックは昨年5月に公開価格38ドルで上場しました。このとき160億ドルを調達しています。この公開価格で新規発行株を買った投資家は、まさにフェイスブックに資金を提供し、同時にフェイスブックの株主となりました。

その後、新規発行株式を取得した人や前から出資していた人が時価(株価)で売り、買う人がいて、フェイスブックの株価は流通市場で動きます。ここでは、売った人は買った人からお金を受け取ります。このため、ここで買った人の資金は会社に行くわけではなく、売った人にわたるのです。いわば、ゴルフの会員権を市場価格で売買するのと同じです。では、資金が会社に行かないのに、株を買った人は会社に貢献しているのでしょうか。

株価は、せりのように、買う株数が売る株数より多いと上がって行き、売る株数が買う株数より多いと下がっていきます。またずっと持っていてくれる株主がいると、売りに出る株数が少なくなるので、株価が上がっていきます。

そして、会社にとって、株価が上がることは重要です。株価が上がっていくことで、会社は社会的な評価が高まり、高株価で効率的に(安い株価より株数を増やさず)資金調達ができるようになり、高株価であればM&Aでも有利だし、役員や従業員のストックオプションを行使するとき大きな売買益が手に入り、株価連動の成果報酬も増えるという効果があります。

このようなことから、会社は業績を上げ、自社株買いや増配で買ってくれる投資家、長く持ってくれる株主を増やそうと懸命に努力します。株を買った人は、株価が上がることに貢献し、長く株を持つことは、売らないので売る株数が少なくなることにより、株価が上がることに貢献し、ひいてはいずれも会社に貢献することになるのです。こうして会社と株主は、株価が上がることによって、WIN、WINの関係になるのです。

SEMINAR

第22回『退職金や金融資産をしっかりと運用するためのセミナー』

－こうすればしっかりお金を増やすことができる－

大切な資産運用で、本当のを知るのはたいへんむずかしくなっています。いい情報も危ない情報もあふれ、手数料収入を何とか取り込もうとしてリスクの高い金融商品を売り込む金融機関や証券会社、FX会社、商品先物会社の営業活動はますます激しくなっています。思わぬリスクの高い商品を勧められ、取り返しのつかない被害を被ることも珍しくありません。

- なぜ日本だけに投資してはダメか、海外投資の必要性とメリット。
- 本当に正しい資産運用法の実践法－やり方によって人生の分岐点にも。
- 証券会社や銀行がいう通りにしては、必ず失敗する。
- よい金融商品とはどういうものか。
- 安心してお金の相談をできる場所はどこか。

詳細はホームページをご覧ください。

30年以上の経験と資産運用で頂点のグローバル資格を持つ、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザー尾藤峰男だから語れる「セカンドライフを豊かに過ごすための資産運用法」をお話します！

日時 : 2013年2月17日(日)15:00～17:00

場所 : TKP東京駅丸の内会議室ミーティングルームC(日比谷帝劇ビル地下1階)

<http://tkpteigeki.net/access/index.shtml> (最寄り駅:有楽町・日比谷駅)

講師 : 尾藤 峰男 びとうファイナンシャルサービス代表取締役

参加費: 1000円(当日支払い)

申込み方法 : メールまたは電話にて「2月17日セミナー参加希望」として、お名前とご連絡先をお知らせください。

E-メール: info@bfsc.jp Tel: 03-6721-8386

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

書評ブログ-平日毎日更新

<http://www.bfsc.jp>

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

発行者: びとうファイナンシャルサービス株式会社

電話: 03-6721-8386

FAX: 050-3156-1072

代表取締役 尾藤峰男

携帯: 090-4934-3121

電子メール: info@bfsc.jp